

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名(注1)</b>	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b>	<b>自治体名</b>
	-(事務局用)	学生が作る!こどもまんなかの取組#こどもまんなかやってみた	山形県鶴岡市
<b>チームがつけたアイデア名(公開)(注2)</b>	文化がまんなかにある大学が子どもを社会のまんなかにする		

(注1)地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

<b>チーム名(公開)</b>	大東文化大学 社会学部 阿部ゼミ Hisu 花チーム		
<b>チーム属性(公開)</b>	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2. 市民／学生混成、	
<b>メンバー数(公開)</b>	8名		
<b>代表者(公開)</b>	井上 夏		
<b>メンバー(公開)</b>	野宮 奨、武田 洋、武田 真優、及川 穂、水野 翔平、小池 明花音、小池 巧		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について:  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示-非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。  
<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認** **確認後 OK なら右に○印を記入⇒○**

## 2. アイデアの説明(公開)

### (1) アイデアの内容(公開)

(1)アイデアの内容、(2)アイデアの理由、(3)実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動(サービス)なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

<応募チームとして**解決したい課題のポイント**はこれです！を**ごく短く以下**に書いてください>

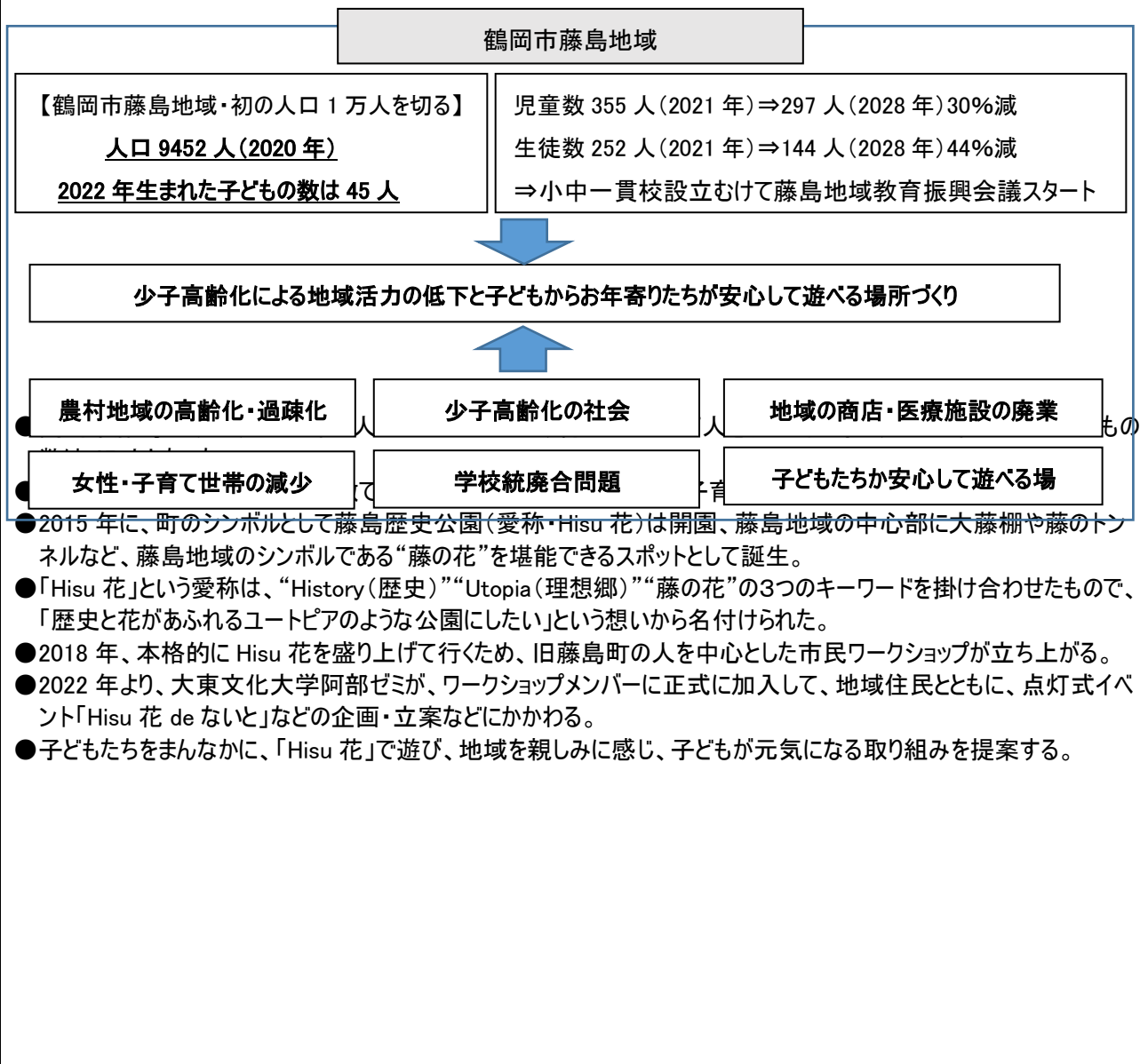
<解決したい課題のポイント>

- ・過疎化と少子化が進む中で子どもたちが地元地域を親しみに感じ、子どもと大人が元気になる取り組み。
- ・大学生と地域住民が一体となって、地域づくりを楽しみながら、交流人口を増やす取り組み。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>



文化がまんなかにある大学が子どもを社会のまんなかにする  
 藤島歴史公園 Hisu 花からの地域づくりへの挑戦

年	内容
2018年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Hisu 花活用ワークショップ」が発足（メンバー20名）。歴史公園の利活用を検討、3回のWS+3回の延長線WS開催。</li> <li>・大東文化大学・阿部英之助先生が、WSファシリテーターとしてかかわる。</li> <li>・「鶴岡市地域まちづくり未来事業」を活用し、13万3,000個の電球を用意し、イルミネーションイベントを開催する。</li> <li>・点灯式を「Hisu 花 de ないと」というマルシェを組み合わせ開催、5,000人が来場</li> <li>・大東文化大学・阿部ゼミ生がイベントスタッフとして、ボランティア参加する。</li> </ul>
2019年	<p>「Hisu 花 de ないと」の第1部に音楽フェスを開催。点灯期間を11月から1月に。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点灯期間中の来場者：20,100人（72日間・日平均279人）</li> </ul>
2020年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため「Hisu 花 de ないと」を中止</li> <li>・『藤島イルミネーションを庄内No.1→山形No.1にする！』缶バッチプロジェクト開始</li> <li>・InstagramとYouTubeアカウント開設。点灯式の模様をインスタライブで生配信</li> <li>・点灯期間中の来場者：22,000人（70日間・平均314人）</li> </ul>
2021年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Hisu 花活用ワークショップ」に新メンバーが10名加入し、25名となる。</li> <li>・昨年同様、「Hisu 花 de ないと」を中止し、生配信を行う。テーマ“星に願いを”</li> <li>・「星座イルミネーション」を実施。冬の大三角形をボール型のイルミやチューブイルミで表現、冬の天の川をイメージし、短冊を用意する</li> <li>・庄内農業高校に、「庄農コーナー」を設け、イルミネーションを担当</li> <li>・点灯の瞬間に立ち会える10組を募集し、招待するという企画を実施</li> <li>・視聴者へのキーワードによるプレゼント企画を実施</li> <li>・インスタ投稿数139回（今年度70回）、フォロワー数1,589人</li> <li>・点灯期間中の来場者は、27,000人（69日間・平均394人）</li> </ul>
2022年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Hisu 花 de ないと」を3年ぶりに開催。「音楽フェス」も同時開催</li> <li>・テーマ“遊べるイルミ” 「あそべるコーナー」として、イエローコースターなどを設置</li> <li>・ワークショップメンバーに、阿部ゼミ生が正式に参加し、SNS、ふるまいを担当。</li> <li>・東田川文化記念館の壁面を活用したプロジェクションマッピングの実施</li> </ul>

## 2. アイデアの説明(公開)

### (1) アイデアの内容(公開)

	<ul style="list-style-type: none"><li>・インスタ投稿数 226 回 (今年度 88 回)、フォロワー数 1,904 人</li><li>・「#Hisu 花」でタグ付けされた投稿は Instagram だけで、1,600 件</li><li>・点灯期間中の来場者は、26,000 人 (68 日間・平均 382 人)</li></ul>
2023 年	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎回点灯式に降られる雨を味方につけようとテーマを「フジ・アメ」</li><li>・東田川文化記念館の壁面を活用したプロジェクションマッピングに 550 名参加</li><li>・点灯式に来場者は、過去最高の 5,500 人、フォロワー数 2,139 人</li></ul>

## 2. アイデアの説明(公開)

## (2) アイデアの理由(公開)

### (2) アイデアの理由(公開)

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます>

<先の(1)で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

#### 鶴岡市藤地域を取り巻く課題

- 藤にこだわったまちづくり・住民協働による地域づくり
- イルミネーションイベントによる魅力発信
- 子育て世代から選ばれる支援制度および住みやすさ
- 子どもたちから大人まで魅力に思える地域シンボルの形成

#### 大東文化大学・阿部ゼミ

- ・ 地域住民と共同の地域づくり
- ・ 地域経済効果の検証
- ・ 客観的なデータの提示
- ・ 住民に寄り添った課題提案

#### 「藤島イルミネーション 2022 アンケートの実施 <2022年11月実施>

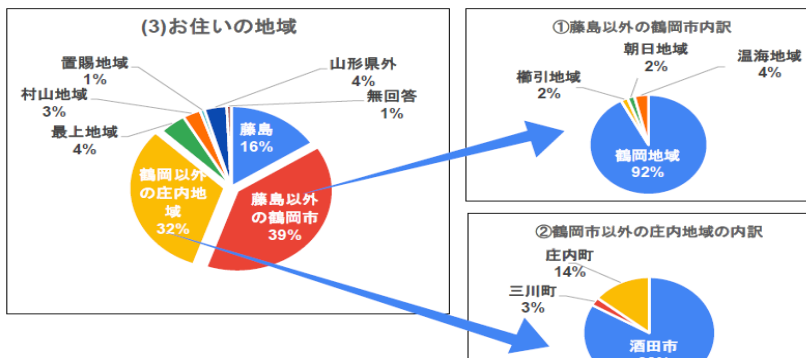
○実施方法: アンケート調査(Googleフォームを利用)

○実施期間: 2022年11月24日~2023年1月9日

○回答数: 132名

#### 【来場者】

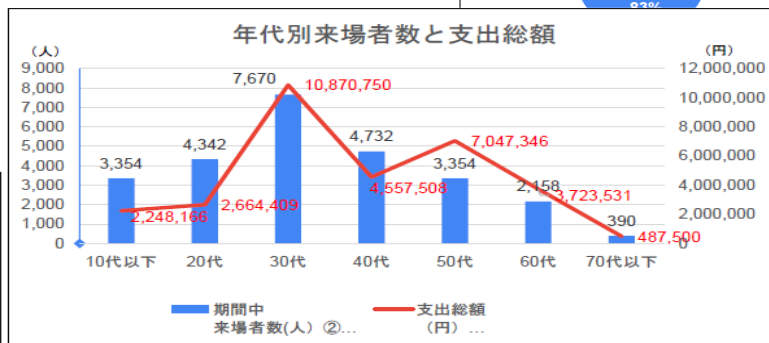
- ・ 4割が藤島地以外の地域から来場している。
- ・ 来場者の半数が、「配偶者」「子ども」とともに来場している。



#### 【経済効果】

2022シーズンのイルミネーション来場者26,000人が、市内で買物等の支出をした人数は、支出する割合64%から計算すると、16,700人程度と推計され、過半数を上回っている年代別の来場者数及び支出する割合、単価から市内での買物総額を推計すると約3,160万円となり、かなりの経済効果があるように思われる。

なお、藤島地域のみでの支出総額としても1千万円を超えており、「藤島地域+他地域」の半分程度が藤島と仮定すると、藤島地域内での支出額は1,900万円程度あるのではないかと考えられる。







5/26第1回WS



9/7第3回WS(大東大生も参加)

テーマに沿ったイルミネーションの展開  
「#あそべるイルミ」「#おいしいイルミ」



・ピンポンパン



・イエローコースター

↑係員の配置が必要なアトラクションであるため、  
11/3(Hisu花deないと)のみの開設になってしまった。



- ・大東文化大学のチュロス(Glicina)のふるまい
- ・手作りの缶バッチがちゃがちゃ(100円募金)



第1部(昼の部) 音楽フェス



第2部(夜の部)点灯式



ステージ発表

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

文化がまんなかにある大学が子どもを社会のまんなかにする  
 藤島歴史公園 Hisu 花からの地域づくりへの挑戦

●実施主体:「Hisu 花」ワークショップ <地域住民+大東文化大学・阿部ゼミによる混成チーム>

連携する組織

- 大東文化大学社会学部・阿部ゼミ
- 大東文化大学・地域ボランティア団体・なかいた環創堂
- 藤島地域青少年ボランティアサークル Ben'S
- 山形県立庄内農業高校
- 藤島地域・くりくり保育園・こりす保育園・いなぼ幼稚園

地域による協賛金・クラウドファンディング

- 「Hisu 花 de ないと 2023」は、67 団体による協賛で 67 万円の実績がある。
- 缶バッチ募金<100 円でイルミ 1 球増>
- 庄内銀行ふるさと創造基金の活用
- 新たにクラウドファンディングの活用

子どもまんなか一日オープン・キャンパス

- 藤島地域の子どもたちを中心に、藤島歴史公園での遊びの 1 日オープン・キャンパスの実施
  - ・大東文化大学 100 周年記念事業による「フレンドシップかるた」で学ぶ SDGs 文化体験
  - ・日本で唯一の書道学科の学生と一緒に書道教室で書の文化体験
  - ・鶴岡市出身の漢詩人・大東文化大学・初代学長・土屋竹雨の足跡から漢語を学ぶ・歴史文化体験
  - ・JA 庄内たがわのわら工芸部会による藁細工作りによる藁文化体験
  - ・歴史公園にあるかまどを使い、「つや姫」誕生の町・ふじしま」によるやコメを知る食文化体験
  - ・庄内による伝統野菜などを用いた調理体験を行う食育文化体験
  - ・自分たちでイルミネーションのデザインを考える・美術・技術体験
  - ・歴史公園に花を咲かせるたねダンゴの作りによる農業体験

